

読む人の幸せを心に願って作る

喜びの タネまき 新聞

No.588

般若寺のコスモス〈奈良県〉

秋には約15万本ものコスモスが咲き誇ることから、「コスモス寺」として親しまれている般若寺。大人の背丈ほど背の高いコスモスをはじめ30種類もあり、境内全体がピンク、赤、白、黄などの花々に包まれます。



※イラストはイメージです



伝統工芸品の奈良筆は、約1200年前より続く技法「練り混ぜ法」により、十数種類の獣毛を組み合わせ、1本1本手作りされています。

へつなぐ

先日、「ダスキン全国ケアサービス加盟店会二十周年記念大会」に参加しました。

このケアサービス加盟店会は、プロのお掃除を提供するサービスマスターをはじめ、害虫獣駆除、家事代行、樹木や芝の管理などの四つの事業が一つになってスタートしたものです。

大会には約五百名の加盟店オーナーらが参加し、「つなぐ」をテーマに開催されました。創業オーナーから後継者へ夢をつなぐ。創業から今日まで、そして未来へと、心や夢をつないでいく大会となりました。

創業時は、事業が成長することを願い、一生懸命に活動するものですが、全てが成功するとは限りません。しかし、その時々により事業に関わった人たちが創意工夫して「今」があると思うと感慨深いものがあります。

しかし、諸先輩が築き上げた「今」は、今後も続くとは限りません。常に今を「0(ゼロ)」と考え、創業時の気持ちを忘れず、創意工夫した思いや行動を、次に続く人たちにつなげなければ成長はありません。

個人に置き換えると、頑張って育ててくれた親がいて「今」の自分があります。その「今」を一生懸命に創意工夫することで更なる成長につながり、その個人の成長が周囲の人たちにも良い影響を及ぼすものだと思います。

大会を通して感じた事業継承を、個人の成長にも生かしていきたいと思いました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



佐賀県吉野ヶ里町「吉野ヶ里バンブーオーケストラ」

故郷への想いを 竹の優しい音色にのせて

遺跡の里に生まれた

ユニークな竹の合奏団

「吉野ヶ里遺跡」で知られる佐賀県・吉野ヶ里町。そんな歴史ロマンあふれる町で、竹の楽器を使った演奏活動を行う合奏団が「吉野ヶ里バンブーオーケストラ」です。現在メンバーは中学生から70代までの12名。世代を超えた人たちが大家族のように集まるアマチュア演奏集団として、県内外で知名度を高めています。

もともと吉野ヶ里町は竹が多く自生する地域。この町らしい伝統文化を創るなら、竹の楽器を使った楽団はどうだろう？ そんなアイデアが合奏団誕生のきっかけになりました。しかし、呼びかけに集まったものの、ほとんどのメンバーが楽器を作ったことはもちろん、触ったこともない素人ばかり。「音譜すら読めない人も多かったとよ」と創設当時から参加している野中智子さんは語ります。その後、佐賀県出身の尺八奏者で「竹の音楽家」としても名高い柴田旺山さんの指導のもと、全員で竹の伐



県内外で精力的に公演を行っている

採から油抜き、乾燥、製作、調律と約1年がかりで竹の楽器を作り上げました。そして自分たちの楽譜に「ドレミ…」と書き込みながら、休日も返上して日々深夜まで猛練習。平成8年に開催された「世界炎の博覧会」では日本初の竹の創作楽器アマチュア合奏団として初演奏を披露し、喝采を浴びました。

聴く人の心に響く
温かくも力強い音色

竹の楽器が奏でる音は、なんとも温かで優しい音色です。しかし、10人以上のメンバーが一斉に演奏を始めると、一瞬でその世界に引き込まれるほどの迫力があります。レパートリーは民謡からクラシック、歌謡曲まで40曲以上もあり、毎年新曲に挑戦しているそうです。指導するのはベテランの大人たちですが、新曲となると子どもたちの方が覚えが早く、「何でできんとよ〜」と逆に教えられることもあるとか。

演奏活動はコンサートだけにとどまらず、県内外のイベントや親子で竹の楽器を作るワークショップ、高齢者施設への訪問と多彩です。簡単に音が出る竹ベラのような楽器を手にとってもらい、小さな子どもやお年寄りと一緒に演奏することも。その場にいる人全員が一体となって音楽を楽しめるのも、バンブーオーケストラの魅力です。

「竹の音には、不思議と人の心

竹の楽器は気温や湿度で音色が変化するので、日々のメンテナンスが欠かせない



メロディーラインを担当する三姉弟。息の合った演奏はさすが



町に自生する竹で楽器を作ることで、竹林保全の重要性なども発信



を癒す力があるようで、たくさんの人に喜んでもらっています。それに、私たちの演奏を聴いて吉野ヶ里に興味を持ってもらえるのもうれしい。今年20周年を迎えたので、この先も30周年、40周年を目指して続けていきたいですね」と野中さん。

優しくも力強い彼らの演奏は、まっすぐに伸びる竹と同様、聴く人の心に故郷を大切にしたいをストレートに届けています。

佐賀県の 郷土料理

ゆでだごの作り方

茹でた団子がなまって「ゆでだご」と呼ばれるようになった、佐賀のおやつ。素朴な味わいで、昔は農作業の合間にも食べられていたそうです。季節の野菜を練り込めばカラフルな仕上がりになります。



材料(約10個分)

中力粉 70g
白玉粉 35g
ほうれん草 2〜3株
(他に、にんじん…中1/2本、かぼちゃ…中1/8程度など)
こし餡 100g
水 適量(50ml程度)

作り方を教えてくれた人



「佐賀市食生活改善推進協議会」
会長 原田 洋子さん(左)&
ヘルスメイトの皆さん

郷土料理スペシャリストの原田会長を筆頭に、約750名のヘルスメイトが食育や地産地消を取り入れた食生活の改善法を提案。「食の健康教室伝達会」(年間200回)などを開催している。

5



沸騰した湯に入れ、浮いてきたら鍋からあげて水に取る。水分をきり、粗熱がとれたら完成。

4



生地を伸ばしてこし餡を包み、厚さ1cm程度に押しつぶして平らに形を整える。1個に使った生地は20g、こし餡は10gが目安。

3



ほうれん草を粉に混ぜ、少しづつ水を足しながらこねる。耳たぶ程度の柔らかさになればOK。

2



※他の野菜の場合も同様に調理

1



ほうれん草の葉だけをフードプロセッサー、または包丁でみじん切りにしてペースト状にする。

えがおで暮らせば

少しずつ紅葉が始まり、秋も深まってきました。長袖が活躍する季節ですね。着こなし上手の坂井さんに、お洋服へのこだわりについてお話しいただきました。

坂井より子さん

1946年生まれ。神奈川県葉山町在住。主婦歴40年の経験を生かした、やさしい家庭料理の伝授と暮らしの知恵を交えた語りが好評を博し、さまざまな世代の女性から人気を集める。近年、親子教室などで若いお母さんたちの支えとなる活動も行っている。著書に「受け継ぐ暮らし」「暮らしをつむぐ」(技術評論社)。

第十六話

自分らしい装い

失敗を重ねながら

街路樹が色づき始め、少しずつ肌寒さを感じるようになってきましたね。先日、引き出しの中を冬服に入れ替えました。冬服といっても

好みの色合いばかりなのであまり代わり映えはしませんが、久々に顔を合わせるお洋服を見るとうれしくなります。私も若い頃は流行のおしゃれに夢中で、いろいろなファッション

定番があれば悩まない

私の普段着は、細身のカットソーやセーターに、ふわっとしたラインのスカート。この組み合わせがしばらく動き回るので、足さばきのいいスカートが便利なのです。家にあるスカートの多くがお手製のもの。自分用に寸法をアレンジした定番の型紙があるので、気に入った生地を見つけては作っています。手づくりだと色や柄なども好きに選べるので楽しいですよ。

お出かけ着はスーツかワンピースが多いですね。私は外出前に家事や夕食の段取りを終わらせておきたいので、着替えにはあまり時間をかけたくありません。パツと着てパツと出かけられるお洋服がベスト。重ね着やコーディネートは苦手ですから、普段着もお出かけ着



〈家にいる時〉
スカート+カットソーに
冬でも素足でルームサンダルが定番



〈お出かけ時〉
ジャケットを羽織って
ヤマブドウのカゴバッグをお供に

もパターンが決まっていれば悩まなくて済むので楽です。

人から見ればいつも同じ様に思われるかもしれませんが、素材の風合いやシルエットなどはそれぞれ少しずつ違って、組み合わせる楽しみもありますよ。

変化はアレンジで楽しむ

もともと私は、無地やボーダー柄など流行に左右されにくいシンプルなデザインが好きなので、引き出しやクローゼットには長年大切にしているお洋服がたくさんあります。十数年前に作ったロングスカートは今も活躍してくれていますし、昔3500円で購入したコートは、かれこれ20年選手。体型の変化などに合わせて丈を詰めたり、スナックプを付け替えたり、その都度お直しして着ています。

自分らしいスタイルで

あれこれ着ようとして失敗するくらいなら、自分のお気に入りのスタイルを貫こう。そう思えるようになってからは、おしゃれがさらに楽しくなった気がします。女性はいくつになってもおしゃれを楽しみたい



気になる所があれば手縫いでお直し



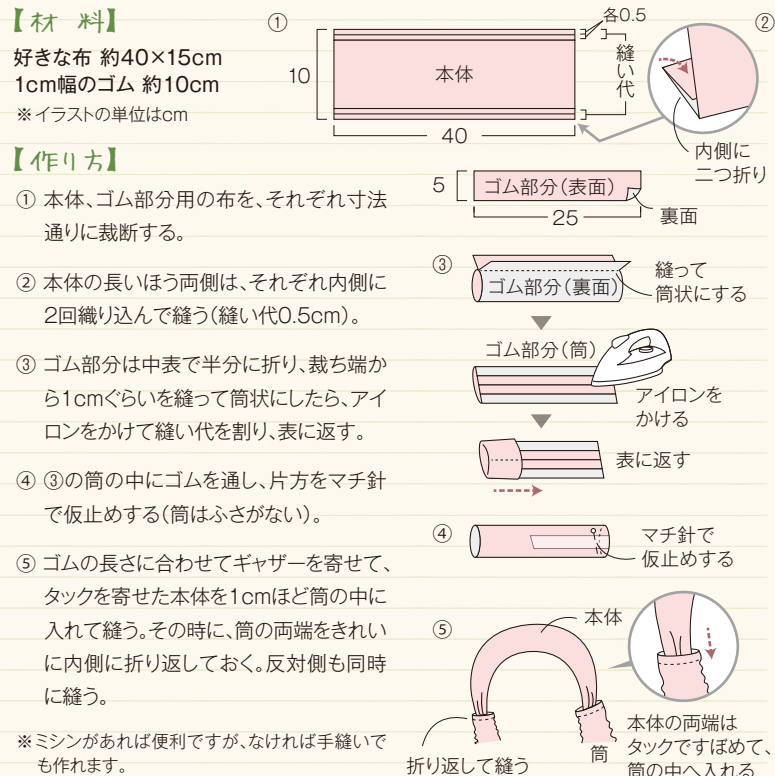
引き出しにはお気に入りの服が並ぶ

より子さんのノート

簡単に作れるヘアバンド



坂井さんがよく作るもののひとつが、ヘアバンド。10分程度で仕上がるので、空いた時間に作るのだそう。ゴムをつけるので、寸法はアバウトでOK。幅を太くしたり細くしたり、お好みでアレンジできます。





思い出深い1日

福岡県春日市 古田 シマエさん

「賀寿の御祝」に招待された旅先で、私たち2人は電車の中で話に夢中になって乗り越してしまい、あわてて下車。駅員さんに事情を話し、「次の電車に乗り換えてください」と教えてもらって、無事に目的の駅に到着することができました。改札口で駅員さんに乗り越したことを話すと、ニコニコしながら、「お2人連れが下車されると連絡が入っております」と言われ、ほっとすると同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして1日を楽しく過ごし、思い出深い日となりました。駅員さんたちの行き届いたおもてなし、ありがとうございました。



駅員さんの丁寧な対応に、心が温まります。



歌唱教室

静岡県三島市 諏訪 久美子さん

歌唱教室に通い始めた。音楽を聴くのは好きだが歌うことはあまりなく、参加してみても皆で歌うのはとても楽しいと感じた。童謡から懐メロ、流行の歌など、いろいろなジャンルを歌う。特に流行の歌は、教室に通わなかったら多分歌う機会はなかったと思う。若い感性に触れて若返った気分になれ、うれしい限りだ。実際に歌ってみると、聴いている時より、詩の素晴らしさに気づく。励まされたり、今までの人生を肯定していいんだと気づかされたり…。至福のひとつときを与えてくれるこの教室に出会えたことは、この1年の最高の喜びだ。



これからも、魅力的な歌との出会いを楽しんでください！



誕生日の涙

群馬県桐生市 越村 ヨシ子さん

通所リハビリのために通っている施設で、誕生会をしていただきました。利用者、スタッフの皆さんに祝福していただき、気分よく帰宅。自宅で待っていたのは、テーブルに用意された赤飯、刺身、きんぴらなど私の好物ばかり。娘夫婦が「おめでとう」と履き心地の良さそうな靴をプレゼントしてくれ、涙が流れてしまいました。さらに、「これは息子から、開けてみて」と言われ見ると、電子辞書が！孫は私が虫眼鏡で辞書を引いているのを知っていたようで、「近いうちに帰るから、その時に使い方を教えるね」とのメールをくれ、またしても涙。アルバイトで稼いだお金で買ってくれたのだと思つと、またまた涙！たくさんの方々祝福された誕生日でした。



とつともうれしいサプライズ。素敵な誕生日になりましたね。



じゃがいものみそ汁

青森県青森市 川浪 祐子さん

家族が認めるじゃがいも好きの私。子どもたちが小学生の頃、「じゃがいものみそ汁なら何日でも食べられるよ」と、つい口に出してしまつた。すると、「どれくらい続けられるかやってみて」と主人。朝夕、じゃがいものみそ汁が続いた。10日目にもなると「まだやめないんだ！」と半ばあきれ顔の子どもたち。そんな子どもたちの意を察してか、夫が「分かったから、明日から変えてくれ」と折れた。そのひと言で、私も含めて皆がほっとした顔をしたのは確かだ。子どもたちはまさに被害者だった。あれから数10年、改めてごめんなさい。



おみそ汁を見ると思わず笑つてしまう、家族みんなの思い出ですね！



かきまわし王子

北海道北見市 佐伯 美貴子さん

66歳にしてやっと出会えた孫は「かきまわし王子」だ。孫が我が家に来る時は手の届くところはすべて片付け、薬や化粧品も高い場所へ。部屋のドアや引き出しにもストッパーを付けた。1歳半の頃はトイレについてきてはありつたけのボタンを押したり、私がテレビを見ているとチャンネルを変えたり、猫のしっぽを引っ張ってひっつかれたことも。2歳を過ぎて少しはおとなしくなった気もするが、まだ落ち着かないようだ。それでも私が歌うと首を左右に振つてリズムをとるところや寝顔を見ると、可愛いと思う。年に何度か遠方より顔を見せに来てくれるが、すぐ会いたくなるのが孫なんだ。



のびのび遊べるのも、大好きなおばあちゃんのおうちだからですよ。



息子の結婚式

大阪府豊中市 川畑 鈴子さん

長男がめでたく結婚式を挙げました。新郎新婦の職場の上司や関係者はもとより、大勢の友人や親戚の方もいらつしやいました。新郎新婦の輝くばかりの純白のタキシードとウェディングドレスや、和服姿がとても素敵で感動しました。ブーケトスでは、新婦が投げたブーケを新婦の弟さんが受け取り大拍手。披露宴では、2人が真っ赤なオーブンカーで登場したりと驚くような演出があり、にぎやかであつという間に時間が過ぎました。出席してくださった皆様にもとても喜んでいただけただけです。4年前に結婚した娘の時とはまた違った気持ちで、忘れられない1日となりました。近所に住む2人なので仲良く付き合っていきたいと思います。



なんて夢のような時間。これからもずっと仲良しで。

燈々無尽

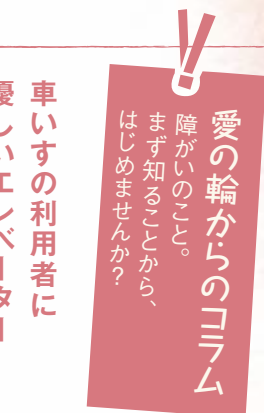
現状維持は退歩

今のままでも、いいんだ。
と、私たちは、どうしても現状維持になりやすい。
未知の世界は不安です。
しかし、人生のロマンを求めるならば、
勇気を出して
新しいチャンスをつかむ事です。

鈴木清一



低い位置にあるボタンや背後の様子が見える鏡など、最近のエレベーターには車いすの利用者に優しい機能が備わっています。車いす用ボタンを押してエレベーターを呼んだ場合、通常のボタンを押した時と比べてドアが開いている時間が長く、中には閉ボタンを押すまでドアが開いたままの機種もあるそうです。後ろ向きに降りなくてはならない時でも、車いすの利用者が慌てなくてすむよう配慮されているんですね。



愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障がいのある若者に、海外での研修活動を行っています。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。
☎06-6821-5270 🌐 <http://www.ainowa.jp/>



あなたのお便りや写真をお寄せください。

みなさまからお送りいただいたお話をもとに新聞を作っています。どうぞ、あなたが体験したうれしかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

送り先

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33
株式会社ダスキン広報部
ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。

- 紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。
- お送りいただいた作品は、必ずご紹介できるとは限りません。また、作品のご返却は致しかねますのであらかじめご了承ください。

No.420からのバックナンバーが
下記のアドレスからご覧になれます。

<http://www.duskin.co.jp/tanemaki/>



わたし
木登り名人!

長野県南佐久郡
由井 志穂さん



仮装
してみたよ

岡山県備前市
川田 照美さん



レモン
すっぱ〜い

福島県郡山市
渡邊 麻美さん

みてもらおう!

読者のみなさまから
お送りいただいた素敵な1枚をご紹介します。



子育てって
大変だね

東京都葛飾区
宮田 秀子さん



ハッピー
ハロウィン!

愛知県田原市
中村 文子さん



お菓子
くれないと
イタズラ
しちゃうよ

香川県
木田郡
山下
ともこさん



お得な情報満載!
LINE@は
もう登録しましたか?!

毎日をちょっと楽しくする
情報をお届けします!
ぜひ友だち追加
してみてくださいね!

LINE紹介
ページへ
アクセス!!



この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集: 広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】
お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。
個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.co.jp